

令和5年度 福岡女子商業高等学校事業計画書

1、施設の概要

学校名	所有区分	郵便番号	学校（会場）所在地	電話番号	F A X 番号
福岡女子商業高等学校	法人所有	811-1203	福岡県那珂川市片縄北1丁目4番1号	092-952-2231	092-952-5934

2、学生の概要

(1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧（令和4年度3月10日現在 1年は見込数）

大学科	学年	学科	コース	定員	在籍数	収容 (%)
商業	1年	商業系	特進コース	70名	71名	101.4%
			商業コース	140名	104名	74.3%
			ビジネスビューティーコース	30名	36名	110.0%
	2年	総合ビジネス科	特進コース	70名	72名	102.9%
			商業実践コース	100名	23名	23.0%
			ビジネスビューティーコース	30名	33名	110.0%
		情報ビジネス科	情報実践コース	80名	52名	65.0%
	3年	総合ビジネス科	特進コース	30名	39名	130.0%
			商業実践コース	100名	25名	25.0%
			ビジネスビューティーコース	30名	27名	90.0%
情報ビジネス科		情報実践コース	80名	27名	33.8%	

(2) 令和5年度入学者予測数・令和4年度卒業生数・退学者数・除籍者数一覧

	入学者数	編入者数	卒業生数（終了者数含）	転学者数	除籍者数	増加予測
商業	211	1	88	7	6	111

※決定：専願195名 前期：16名

3、教職員関係

(1) 令和5年度管理職の概要

職名	氏名	備考（新任・留任等）
学校長	柴山 翔太	留任
副校長	近藤 直輝	新任
教頭	澤井 慎治	留任
事務長	大石 主税	留任

(2) 令和5年度教職員の概要

		合計（人）
教員	本務	34
	非常勤	5
職員	本務	4
	兼務	0

4、事業の概要

(1) 事業の概要

本校は、私学に移管して6年目が終了した。そこで7年目となる本年度からは、次のステージへ向けてICTを日常化し、時代に即した商業教育の再構築を図る。また、全コースにおいて、「起業家のように思考し、起業家のように行動する」起業家教育を推進する。さらに、国公立大学を含む4年制大学への進学やこれまで積み上げてきた地元企業の信頼を強みとし、進路に強い女子商として地域を支える人材の育成に努める。また、社会に開かれた学校として地域連携、高大連携など魅力ある教育活動を展開し、入学生の増加を図る。

(2) 主な事業の目的・計画

年度	事項	概要	進捗状況
1～	高大連携（福岡大学との連携）	・企業理念や経営理念を取り入れた女子商マルシェの見直しを福岡大学商学部との連携を図り研究する。	・年間5回の福岡大学の学生による特別授業を実施した。 ・令和4年1月に福岡大学商学部との包括的連携協定を結び、より強固な協力体制を整えることができた。
1～	第2体育館の活用及び運動場照明施設の取り付け	・第2体育館や照明設備のある運動場を広くスポーツ団体や希望団体へ貸出し、スポーツの振興や地域の活性化に貢献する。	・地域のスポーツクラブを中心に年間を通して放課後や休日は常に地域の方が施設利用をしている状況である。
2～	通学利便性向上のためのスクールバスコース拡充	・スクールバスの1コース（東区方面）に加えて西方面の生徒の通学を支援するコースの新設を検討し施行する。	・西方面のスクールバス対象地域からの生徒が入学するため、令和3年度よりこの路線の運行を実施する。 ・令和4年度入学生において遠方からの進学者が増加した。
3～	大学進学指導の拡充	・より充実した小論文指導体制を構築し、進学希望者への進路指導を徹底し、国公立大学を含めた4年制大学への進学増を実現する。	・令和2年度よりスタディールームを整備し、小論文指導を徹底したことにより、国公立大学進学者を15名（のべ20名）輩出することができた。令和3年度に関しても2年連続で2桁の生徒が国公立大学に進学した。

3～	ビジネスビューティ ーコースの開始	・「美の経営者を育てる」をコンセプトに職業人としての資質、能力、マネジメント力を身に着け起業意欲あふれた人材を育成する。	・ビジネスビューティールームを整備し、新入生 30 名を迎える。 ・令和 4 年度に 3 学年が揃い、初めての卒業生を輩出する年となる。
3～	学外連携の強化	・社会で活躍している大人たちと接する機会をつくり、長期的な視点でのキャリア教育を行う。	・外部講師による講演会や起業家による経営塾、アパレルブランドと連携した課外活動や、映画の制作に関わるプロジェクトなど多くの機会を作り出すことができた。
3～	学校 DX 化	・ICT 環境を整備し、学習効率の向上、教職員の業務効率化、保護者連絡の方法の改善し、学校満足度を向上させる。	・全教室プロジェクター設置、校務支援システム「BLEND」の活用などにより学習効率、業務効率、生徒保護者満足度が向上した。
3～	広報活動の充実	・パンフレット等の広報ツールの一新および、対象中学校の地域拡大、制服のリニューアル等で生徒数増加を目指す。	・広報活動のあり方を見直した年に TV 局や新聞、ラジオなどの取材も多々あり、認知度が大きく向上した。入学者についても例年に比べ大幅に増加させることができた。
4～	国際教育の推進	・進学率向上や起業家教育の推進に伴い、以前よりも国際的な学びの必要性が高まっている。 語学としての英語を学ぶだけではなく、異文化理解やディスポート精神を身につけるための機会を積極的に作り出す。	・国際教育推進のためのチームを編成し、外部との連携を強化する。 ・校内やオンライン上で英会話を行う機会を検討中。 ・留学を推進するために支援体制を構築中。
5～	経営実習としての女子商マルシェの充実	・アントレプレナーシップの醸成を目指し、商業教育の集大成としての女子商マルシェのアップデートを図る	・昨年度の振り返りを元に、授業からマルシェを意識した組み立てを行うとともに、地域の企業、関係者の共通認識を固めるための協議を行なっている。
5～	学校全体としての対話を元にした研修の充実	・対話を元に学校としてのビジョンを固め、職員間、生徒・保護者、地域を巻き込みスクールポリシーの実現を目指す	・月に 1 回程度対話の時間を作り出すためにコーディネーターを選定している。

(3) 施設・設備の整備計画

- ・本校は伝統的に部活動が盛んで、常に県大会上位を占める活躍をしている部活動がある。特にハンドボール部は過去全国大会に出場した経験もあり、令和4年度も九州大会出場の活躍を見せている。また、全日本チームの永田選手は本校の出身者である。
- ・令和2年度にグラウンドの夜間照明設備を設置した。
- ・令和3年度に全教室に遮光カーテンと共にプロジェクターの設置、感染症対策として空気清浄機の導入、第二体育館のWi-Fi環境整備を行った。
- ・令和4年度に食堂の改装及びメディア環境の整備を行った。

(4) 卒業者数、進路状況

卒業者数	就職			進学			家事手伝い	未定
	学校紹介	自己就職 家業	公務員	四年制大	短大	専門学校		
88	12	3	0	36	8	24	3	2

(5) 生徒の就職、進学の状況

商業高校として就職に強いという認識は地域に定着している。また、昨年度より大学進学率も一層高まったことにより、これまでよりも就職を希望する生徒たちに多くの選択肢が行き渡り、就職、進学ともに進路に関する満足度が向上している。

大学進学者を中心に放課後に自主的に進路に向けて学習を進める生徒や、主体的に校外のイベントに参加する生徒が増加し、学校全体に大きな影響を与えている。昨年に続き令和4年度も9人が国公立大学へ進学した。

(6) 教員の採用・退職計画

年度	事 項	概 要
令和2	教職員採用（常勤講師5名） 転退職（専任2名、講師7名 計9名）	専任20名、常勤講師9名、非常勤講師12名
令和3	教職員採用（常勤講師7名） 転退職（専任1名、講師8名 計9名）	専任17名、常勤講師8名、非常勤講師11名
令和4	教職員採用（常勤講師10名） 転退職（専任3名、講師8名 計11名）	専任17名、常勤講師13名、非常勤講師6名

(7) 今後の課題

公立高校の特色化選抜入試の広がりにより私立高校の中でも入学者数の増減幅が拡大している。よって、私立学校としての特色を進路選択の際までにいかにして周知できるかが重要である。また、施設の老朽化に対して計画的な修繕と、将来的な校舎建て替えを見越して財政管理を行っていく必要がある。そして、これまでの商業教育で重要とされてきた検定試験は手段であるという認識のもとに、生きる力としての商業教育を再構築するために積極的に社会と繋がる必要がある。